

水道事業会計

水道事業は、市民の皆さんの生活に必要な不可欠な水を安全に、かつ安定的に供給することを目的に市が一つの企業として運営しています。

事業は、原則、水道料金収入だけで必要な経費を賄う独立採算制で経営を行っています。

水道水を作り、家庭などに届けるための費用と水道料金収入などの収支を表す収益的収支は、1億9,173万円の黒字となりました。

黒字になった分は、国などからの借入金の今後の元金償還に備えるための減債積立金に9,587万円、配水管の更新などの施設整備に備えるため建設改良積立金に9,586万円を積み立てる予定です。

浄水場や配水池、配水管などの整備を行うための支出と、その財源である企業債収入などの収支を表す資本的収支は、4億4,345万円の不足となりました。

不足額は、減価償却費などの内部留保資金（損益勘定留保資金）などで補てんしました。

この結果、令和3年度の純利益は、1億9,173万円を確保できましたが、給水人口の減少に伴う年間給水量の減少傾向は今後も続くものと見込まれます。このような現状に加え、登別温泉浄水場の更新事業などの大口の建設投資が必要となるため、厳しい経営状況が依然として続くものと思われませんが、支出の削減や未収金の解消など、経営努力を行い、経営健全化に努めます。

項目	金額
収益的収入	10億1,131万円
営業収益	9億7,160万円
(内給水収益)	9億3,815万円
営業外収益	3,958万円
特別利益	13万円
収益的支出	8億1,958万円
営業費用	7億5,959万円
営業外費用	5,998万円
特別損失	1万円
純利益	1億9,173万円

項目	金額
資本的収入	6億4,987万円
企業債	5億 880万円
負担金	2,985万円
補助金	1億1,122万円
資本的支出	10億9,332万円
建設改良費	7億5,716万円
企業債償還金	3億3,616万円
不足額	4億4,345万円

給水人口 45,047人
給水戸数 21,580戸
年間給水量 3,709,673立方メートル

企業債の残高(令和4年3月31日現在)

(給水人口1人当たり…10万780円) **45億3,984万円**

簡易水道事業会計

主に農業活動などを支えるライフラインとして重要な役割を担っている簡易水道事業。北海道や市の営農用水事業を経て、平成8年度からは簡易水道事業としての経営認可を受けて事業運営を行い、平成31年4月1日からは市が経営する企業として運営しています。

簡易水道料金などの収入と簡易水道施設の運転や維持管理などにかかる費用と簡易水道料金収入などとの収支を表す収益的収支は、931万円の赤字となりました。

施設の新設や改良、企業債の償還元金などにかかる支出と、その財源である企業債収入などとの収支を表す資本的収支は、357万円の不足となり、不足額は、減価償却費などの内部留保資金（損益勘定留保資金）などで補てんしました。

今後も、経営状況を的確に把握した上で、徹底した経営の効率化や施設管理の見直しを進め、経営健全化への取り組みを一層推進するとともに、投資額の合理化を最大限に行うなどの計画的な経営に努めます。

項目	金額
収益的収入	2,823万円
営業収益	1,355万円
営業外収益	1,468万円
特別利益	0万円
収益的支出	3,754万円
営業費用	3,535万円
営業外費用	218万円
特別損失	1万円
純損失	931万円

項目	金額
資本的収入	527万円
企業債	0万円
補助金	527万円
資本的支出	884万円
建設改良費	37万円
企業債償還金	847万円
不足額	357万円

給水人口 142人
給水戸数 119戸
年間給水量 83,372立方メートル

企業債の残高(令和4年3月31日現在) **1億8,607万円**